

(添削をイメージしていただくためのサンプル文です。実際の依頼原稿ではありません。)

日本語の助詞「は」と「が」の特徴

「は」は主題を提示する助詞であり、話題を設定する役割特徴を持つている。つまり「は」を使うと、聞き手にとって知っている情報や、話の中心になる事柄を強調するときに使用することができる。例えば、「私は学生である。」という文ではことによって、「私」が話題として提示され、「学生である」という情報が述べられている聞き手に伝えられている。「は」を使うことで、「私」という主語が話し手と聞き手にとってすでに共通の認識になっているか、話のポイント中心になっている。また、対比を表すときも「は」が使われる。「私は、魚は好きだが、肉はが嫌いだ」という場合、「魚」と「肉」を対比して、それぞれに異なる評価を与えていることがわかる。

一方、「が」は話し手が新しい情報を伝えるときに使う。例えば、「猫が庭にいる。」という文ではことによって、「猫がいる」という新しい情報を聞き手に伝えている。さらにまた、「が」は主語を強調するときにも~~ケースでも~~使う。「この仕事が大変だ。」と言うとでは、「この仕事」という主語が特に強調され、る。他の仕事ではなく「この仕事」が大変であることを示していることになる。

「は」は主題を提示し、文全体の話題を設定するのに対し、「が」は新しい情報や特定の主語を強調する働きを持つ。「は」と「が」の違いを適切に理解することによって、自然な日本語を話したり書いたり~~←~~ことができるようになる。